

全国月間火山概況

霧島山（新燃岳）では、1 月 26 日から本格的なマグマ噴火が発生し、更に活動が活発になる可能性があることから、26 日に火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）に引き上げました。27 日以降爆発的噴火も発生するようになり、28 日に上空から確認された直径数 10m の溶岩が 30 日には直径 500 m 程度に成長して火口内に蓄積され、爆発的噴火に伴う火砕流や大きな噴石に警戒が必要なことから、31 日、2 月 1 日に火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）を切り替え、火砕流や大きな噴石に対する警戒範囲を拡大しました。新燃岳火口から概ね 4 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。新燃岳火口から概ね 3 km の範囲では、噴火に伴う火砕流に警戒が必要です。火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）が継続しています。

桜島の噴火活動は、昭和火口での爆発的噴火が 1 月中旬頃から増加し、活発な状態で経過しました。今後、更に火山活動が活発化する可能性がありますので、火山活動の推移に注意する必要があります。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）が継続しています。

三宅島では、多量の火山ガスの放出が続いています。火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）が継続しています。

諏訪之瀬島では、爆発的噴火を含む噴火が時々発生し、噴火活動は活発に経過しました。火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）が継続しています。

その他の火山の活動状況に特段の変化はありません。

2 月 8 日現在の各火山の噴火警報及び噴火予報等の発表状況は表 1 のとおりです。

表 1 2 月 8 日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3 (入山規制)	霧島山（新燃岳）、桜島
	レベル 2 (火口周辺規制)	三宅島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報及び火山現象に関する海上警報	周辺海域警戒	福徳岡ノ場
噴火予報	レベル 1（平常）	雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、岩手山、秋田駒ヶ岳、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、草津白根山、浅間山、御嶽山、富士山、箱根山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、口永良部島
	平常	知床硫黄山、羅臼岳、摩周、アトサヌブリ、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、倶多楽、羊蹄山、ニセコ、恵山、渡島大島、恐山、岩木山、八甲田山、十和田、秋田焼山、八幡平、鳥海山、栗駒山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳、高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、新潟焼山、妙高山、弥陀ヶ原、焼岳、アカダナ山、乗鞍岳、白山、伊豆東部火山群、利島、新島、神津島、御蔵島、八丈島、青ヶ島、ペヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、孺婦岩、西之島、海形海山、海德海山、噴火浅根、北福徳堆、南日吉海山、日光海山、三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄島、西表島北北東海底火山、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、挾提焼山、挾提阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山

（火山の順は活火山総覧（第 3 版）による）



図1 噴火警報発表中の火山

【各火山の活動状況及び予報警報事項】

全国の主な火山の活動状況及び予報警報事項は以下のとおりです。その他の火山については、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

三宅島 【火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)】

山頂火口からの噴煙高度は、火口縁上概ね100～600mで経過しました。

5日および20日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は、一日あたり800～1,000トン(前回2010年12月15日及び27日、600～700トン)で、多量の火山ガス放出が続いています。

三宅村によると、山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されています。

山頂火口直下を震源とする火山性地震は、少ない状態が続いています。

地磁気連続観測では、火山体内部の熱の状況に大きな変化はありませんでした。

GPS連続観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動が継続しています。

火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、山頂火口周辺(雄山環状線内側)では噴火に対する警戒が必要です。また、火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では火山ガスに対する警戒が必要です。

硫黄島 【火口周辺警報(火口周辺危険)】

29日及び30日に海上自衛隊の協力により実施した現地調査では、前回(2010年7月29日)の観測時と比べて、島内の噴気及び地熱等の状況に大きな変化は認められませんでした。

独立行政法人防災科学技術研究所の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過しています。

国土地理院の観測によると、2006年8月に始まった島全体の隆起を示す地殻変動は、2010年11月中旬頃から一旦鈍化しましたが、現在も継続しています。島内南北方向の伸びの傾向は継続しています。

火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、これまで小規模な噴火が発生した島東部の海岸付近、島西部(井戸ヶ浜等)及び南東沖(翁浜沖)では噴火に対する警戒が必要です。

福德岡ノ場【噴火警報(周辺海域警戒)及び火山現象に関する海上警報】

19 日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測によると、火山活動による複数の湧出点からと思われる青白色、乳白色、うぐいす色の変色水が、北東方向側に半径約 500 メートルの扇形状に広がっているのが確認されました。

24 日に海上自衛隊が実施した上空からの観測によると、福德岡ノ場付近の海面に火山活動による変色水が確認されました。

28 日に海上自衛隊の協力により実施した上空からの観測では、福德岡ノ場付近の海域で火山活動によるとみられる白濁、薄茶色の変色水を確認しましたが、浮遊物は確認されませんでした。

福德岡ノ場ではしばしば変色水や浮遊物が観測されており、2010 年 2 月 3 日には小規模な海底噴火が発生しています。

今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要です。

霧島山(新燃岳)【火口周辺警報(噴火警戒レベル 3、入山規制)】← 1月26日に噴火警戒レベルを 2 (火口周辺規制) から 3 (入山規制) に引き上げ、また、1月31日 および2月1日に火口周辺警報を発表し、警報事項を切替(噴火警戒レベル 3 (入山規制)は継続)。

霧島山(新燃岳)では、1 月 19 日にマグマ水蒸気爆発と思われる小規模な噴火が発生しました。26 日 07 時 31 分にごく小規模な噴火が発生し、14 時 49 分頃から本格的なマグマ噴火が始まり、更に活動が活発になる可能性があることから、18 時 00 分に火口周辺警報(噴火警戒レベル 3、入山規制)に引き上げました。同日夜間には、遠望カメラで新燃岳火口から高温の物質が噴出しているのを確認しました。新燃岳火口では、26 日以降夜間に高感度カメラで火映を観測しています。

27 日 15 時 41 分には、中規模の爆発的噴火が発生し、噴煙が火口縁上 2,500m まで上がり雲に入りました。新燃岳で爆発的噴火が発生したのは、1959 年以来 52 年ぶりです。

28 日午前に、東京大学地震研究所が実施した上空からの観測で火口内に直径数 10m の溶岩が確認され、また、火口の南西側に小規模な火砕流が 500~600m 程度流下した跡が確認されました。

気象研究所と防災科学技術研究所が行った、だいち衛星画像(JAXA 提供)の解析により、30 日には火口内に蓄積された溶岩が、直径 500m 程度の大きさに成長していることが判明し、また 2 月 1 日 07 時 54 分に発生した中規模な爆発的噴火では、新燃岳火口から南西約 3.2km 付近で長径 70 cm 短径 50 cm の大きな噴石が飛散しているのを気象庁機動調査班の現地調査で確認しました。

このため、爆発的噴火に伴う火砕流や大きな噴石に警戒が必要なことから、31 日 01 時 35 分、2 月 1 日 11 時 20 分に火口周辺警報(噴火警戒レベル 3、入山規制)を切り替え、火砕流や大きな噴石に対する警戒範囲を拡大しました。

噴煙活動は 19 日の噴火以降、火山灰を噴出するようになり、26 日以降噴火が拡大し最高高度は 27 日及び 2 月 2 日の 3,000m でした。

火山性地震は増減を繰り返しながらやや多い状態が続いていましたが、18 日には一時的に 32 回と増加しました。28 日以降は日回数が増加し、月回数は 1,655 回(2010 年 12 月: 203 回)でした。

火山性微動は 19 日の噴火以降連続して観測するようになり、26 日以降は振幅が大きくなりました。

GPS 連続観測では、新床-新燃岳北東の基線で 2010 年 9 月頃から伸びの傾向がみられていましたが、26 日以降の噴火による噴出物の増加に伴う収縮傾向に転じています。また、傾斜計で 26 日以降の噴火による噴出物の増加に伴う山体の沈降を示す変化が観測されていましたが、31 日から隆起に転じ 2 月 2 日以降停滞しています。

また、国土地理院の GPS 観測結果では、霧島山周辺でこの火山活動に伴う地殻変動が見られます。

新燃岳火口から概ね 4 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。新燃岳火口から概ね 3 km の範囲では、噴火に伴う火砕流に警戒が必要です。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石(火山れき)に注意が必要です。これまでの噴火では、直径 4 cm から 6 cm の小さな噴石は新燃岳火口から 7 km 付近にまで達しています。また、爆発的噴火に伴う大きな空振に注意が必要です。降雨時には泥流や土石流に注意が必要です。

桜島【火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）】

昭和火口では、爆発的噴火を含む噴火が 1 月中旬頃から増加し、活発な状態でした。1 月上旬にもごく小規模な噴火が、断続的に発生しました。噴火が 102 回（2010 年 12 月：62 回）発生し、そのうち爆発的噴火は 88 回（2010 年 12 月：52 回）でした。これらの噴火に伴い、最も遠くまで飛散した大きな噴石は 4 合目（昭和火口から 800m～1,300m）まで達しました。火砕流は、観測されませんでした。

南岳山頂火口では、2 月 7 日に爆発的噴火が 2 回発生しました。南岳山頂火口からの爆発的噴火は、2009 年 10 月 3 日以来です。

火山性地震は少ない状態で経過しました。

7 日、13 日に実施した現地調査では、二酸化硫黄の平均放出量は、一日あたり 800～1,700 トン（12 月：2,600 トン）とやや多い状態でした。

GPS 連続観測では、2010 年初めころからみられた桜島島内の伸びの傾向は、2010 年 6 月頃から鈍化または収縮に転じています。有村観測坑道の水管傾斜計（大隅河川国道事務所設置）では、2010 年 7 月頃からみられた山体の沈降傾向は 2010 年 11 月下旬以降停滞しています。

また、国土地理院の GPS による地殻変動観測では、始良（あいら）カルデラ（鹿児島湾奥部）深部の膨張による長期的な伸びの傾向がみられますが、2010 年 7 月頃から鈍化しています。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。降雨時には土石流に注意が必要です。

薩摩硫黄島【火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）】

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや高い状態が続いており、白色の噴煙が火口縁上概ね 100m（最高高度は火口縁上 300m）で経過しました。また、同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映を時々観測しました。

火山性地震は少ない状態で経過しました。

14 日に第十管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、前回（2010 年 10 月 22 日）と比べて硫黄岳山頂火口及びその周辺の状況に特段の変化ありませんでした。

火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では噴火に対する警戒が必要です。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意が必要です。

諏訪之瀬島【火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）】

御岳火口では、爆発的噴火を含む噴火が時々発生し、噴火活動は活発に経過しました。爆発的噴火は 26 回（2010 年 12 月：17 回）とやや増加しました。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いています。

14 日に、第十管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、御岳火口及びその周辺の状況に特段の変化は認められませんでした。

諏訪之瀬島では長期にわたり噴火を繰り返しており、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石にも注意が必要です。

（火山の順は活火山総覧（第 3 版）による）

資料１ 全国の火山の噴火警報及び噴火予報の発表状況のまとめ（平成 23 年 2 月 8 日現在）

（１）主な活火山

	火山名	噴火警報及び噴火予報の発表状況	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
北海道地方	雌阿寒岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（平常） 2008 年 9 月 29 日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008 年 10 月 17 日 噴火予報（平常） 2008 年 11 月 17 日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008 年 12 月 16 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2009 年 4 月 10 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	十勝岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（平常） 2008 年 12 月 16 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	樽前山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	倶多楽	噴火予報（平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（平常）
	有珠山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（平常） 2008 年 6 月 9 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	北海道駒ヶ岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	恵 山	噴火予報（平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（平常）
東北地方	岩木山	噴火予報（平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（平常）
	岩手山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	秋田駒ヶ岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（平常） 2009 年 10 月 27 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	栗駒山	噴火予報（平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（平常）
	吾妻山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	安達太良山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（平常） 2009 年 3 月 31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	磐梯山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（平常） 2009 年 3 月 31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
関東・中部地方・伊豆・小笠原諸島	那須岳	噴火予報（レベル 1、平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（平常） 2009 年 3 月 31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	草津白根山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常） 2009 年 4 月 10 日 噴火予報（レベル 1、平常）切替
	浅間山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常） 2008 年 8 月 8 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2009 年 2 月 1 日 火口周辺警報（レベル 3、入山規制） 2009 年 2 月 3 日 火口周辺警報（レベル 3、入山規制）切替 2009 年 4 月 7 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制） 2010 年 4 月 15 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	新潟焼山	噴火予報（平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（平常）
	御嶽山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（平常） 2008 年 3 月 31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	白 山	噴火予報（平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（平常）
	富士山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	箱根山	噴火予報（レベル 1、平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（平常） 2009 年 3 月 31 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	伊豆東部火山群	噴火予報（平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（平常）
	伊豆大島	噴火予報（レベル 1、平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（レベル 1、平常）
	三宅島	火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制）	2007 年 12 月 1 日 火口周辺警報（火口周辺危険） 2008 年 3 月 31 日 火口周辺警報（レベル 2、火口周辺規制）
	八丈島	噴火予報（平常）	2007 年 12 月 1 日 噴火予報（平常）
	硫黄島	火口周辺警報（火口周辺危険）	2007 年 12 月 1 日 火口周辺警報（火口周辺危険）
	福徳岡ノ場	噴火警報（周辺海域警戒）	2007 年 12 月 1 日 噴火警報（周辺海域警戒）

	火山名	噴火警報及び噴火予報の発表状況	噴火警報及び噴火予報の発表履歴
九州地方・南西諸島	九重山	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル１、平常）
	阿蘇山	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル１、平常）
	雲仙岳	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル１、平常）
	霧島山 （新燃岳）	火口周辺警報 （レベル３、入山規制）	2007年12月1日 噴火予報（レベル１、平常） 2008年8月22日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年10月29日 噴火予報（レベル１、平常） 2010年3月30日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2010年4月16日 噴火予報（レベル１、平常） 2010年5月6日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2011年1月26日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2011年1月31日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2011年2月1日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替
	霧島山（御鉢）	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月1日 噴火予報（レベル１、平常）
	桜 島	火口周辺警報 （レベル３、入山規制）	2007年12月1日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年2月3日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2008年2月20日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年4月8日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2008年7月14日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年7月28日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2008年8月28日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年2月3日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2009年2月19日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年3月2日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2009年3月10日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）切替 2009年4月24日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年7月19日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2010年9月30日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2010年10月13日 火口周辺警報（レベル３、入山規制）
	薩摩硫黄島	火口周辺警報 （レベル２、火口周辺規制）	2007年12月1日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）
	口永良部島	噴火予報（レベル１、平常）	2007年12月1日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年1月25日 噴火予報（レベル１、平常） 2008年9月4日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2008年10月27日 火口周辺警報（レベル３、入山規制） 2009年3月18日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年8月4日 噴火予報（レベル１、平常） 2009年9月27日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制） 2009年10月30日 噴火予報（レベル１、平常）
	諏訪之瀬島	火口周辺警報 （レベル２、火口周辺規制）	2007年12月1日 火口周辺警報（レベル２、火口周辺規制）

注）噴火警報及び噴火予報の発表履歴欄には、平成19年12月1日の噴火警報及び噴火予報の発表と噴火警戒レベルの運用開始からの経過を示す。
この表では、主な活火山として、警報を発表している、または連続的に監視を行っている火山を示している。また、ここで示すレベルは噴火警戒レベルである。

（２）その他の活火山

以下の活火山では平成19年12月1日に噴火予報（平常）を発表し、その後、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

	火 山 名
北海道地方	知床硫黄山、羅臼岳、摩周、アトサヌブリ、丸山、大雪山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山
東北地方	恐山、八甲田山、十和田、秋田焼山、八幡平、鳥海山、鳴子、肘折、蔵王山、沼沢、燧ヶ岳

関東・中部地方 及び伊豆・小笠原諸島	高原山、日光白根山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、弥陀ヶ原、焼岳、アカンダナ山、乗鞍岳、利島、新島、神津島、御蔵島、青ヶ島、ベヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、嬬婦岩、西之島、海形海山、海德海山、噴火浅根、北福德堆、南日吉海山、日光海山
中国・九州地方 及び南西諸島	三瓶山、阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄島、西表島北北東海底火山